

Cross-cultural Engineering Project (CEP)

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2025年12月09日 ~2025年12月18日	日本	キングモンクット工科大学ト ンブリ校 スラナリー工科大学 ハノイ理工科大学 バンドン工科大学 泰日工科大学 タシュケント情報技術大学 ブラジル連邦大学ABC タマサート大学 インドネシア教育大学 マレーシア国民大学 KLS ゴゴト工科大学 チェンナイ工科大学 タシュケント情報技術大学 ブラジル連邦大学ABC ブラジリア大学 フランクフルト応用科学大学 ウィーン工科大学 東スイス応用科学大学 (OST) ミーニョ大学	・電子情報システム学科、機 械制御システム学科、環境 システム学科 ・学部3年生、学部4年生、修 士1年生、修士2年生、博士1 年生、博士2年生	(芝浦工業大学) 学生38名、学生バイト5名、教員6名 (キングモンクット工科大学トンブリ校) 学生10名 (スラナリー工科大学) 学生2名 (ハノイ理工科大学) 学生5名 (バンドン工科大学) 学生3名 (泰日工科大学) 学生2名 (タシュケント情報技術大学) 学生3名 (ブラジル連邦大学ABC) 学生3名 (タマサート大学) 学生5名 (インドネシア教育大学) 学生3名 (マレーシア国民大学) 学生3名 (KLS ゴゴト工科大学) 学生3名 (チェンナイ工科大学) 学生3名 (タシュケント情報技術大学) 学生3名 (ブラジル連邦大学ABC) 学生3名 (ブラジリア大学) 学生4名 (フランクフルト応用科学大学) 学生3名 (ウィーン工科大学) 学生3名 (東スイス応用科学大学 (OST)) 学生1名 (ミーニョ大学) 学生1名	間野 一則(情報課程メ ディアコース)、渡邊 大(機械・ 電気課程機械・電気コー ス)、市川 学(情報課程デー タサイエンスコース)、村上 遼代子(電気電子工学課程 先端電子工学コース)、後藤 裕介(情報課程データサイエ ンスコース)、持永 大(情報 課程メディアコース)、長谷川 浩志(機械・電気課程機械・ 電気コース)



図1 プロジェクト活動

システム理工学部、大学院理工学研究科システム理工学専攻では、システム思考の工学(システム工学)教育プログラムを学部・大学院専攻のコア科目として実施(社会人基礎力を育成する授業30選に選定)している。この教育プログラムの集大成となるプロジェクトがCross-cultural Engineering Project (CEP)である。CEPは、日本、東南アジア、ヨーロッパの三地域で実施されている。大宮キャンパスで開催されるCEPは、多国籍・多分野の学生が産学地域連携課題を取り扱う多文化共修科目である。東南アジア地域はタイのバンコクで実施し、グローバル課題を対象にする。ヨーロッパ地域は、ポルトガルで実施し、イノベーション創出を課題としている。これら3地域のどれかを履修することで単位取得ができる。本年度は、12月9日から18日まで大宮キャンパスと那須高原で実施した。メンバーは、日本人を含む108名、世界15カ国から集まり16チームに分かれて、分野混成、多国籍チームによるプロジェクトを実施した。プロジェクトチームは、企業の課題解決チームが9チーム(タイの企業を含む)、地域自治体の課題解決チームが6チーム、アントレプロジェクトが1チームで構成された。また、プログラムでは、12月14日から16日までの2泊3日で、栃木県那須町にて「東京の外へ踏み出すためのストーリー」をテーマとしたワークショップを実施した。学生たちは、パブリック・ナラティブ(Public Narrative)の手法を用いて共感を主体とした海外旅行者が東京の郊外へ踏み出すためのストーリーを作成、地域のステークホルダーに対して提案を行った。

全体プロジェクトのアワードは、淡水ブルーカーボンのプロジェクトチームであった。まだ開発途中の淡水ブルーカーボンに対して、ドローン、IoTセンサー、ソフトバンクが積極投資をしている生成AI(OpenAI)を組み合わせた素晴らしい提案であった。以上、各プロジェクトチームの提案内容は、魅力的なものが多く好評を博し、参加学生たちにとって、有意義な経験と多国籍・多文化交流ができたものと考えられる。



図2 デザインレビュー



図3 プロジェクト活動



図4 集合写真